



飯 國 芳 明 教授

高知県大豊町集落活動センター「絆の里・いわはら」において中岡邦夫氏撮影





中川 香代 教授



## 飯國芳明先生の定年退職にあたって

社会科学コース長 山内 高太郎

飯國芳明先生は、1981年に島根大学農学部をご卒業後、京都大学農学研究科修士課程農林経済学専攻に進まれました。同大学院博士後期課程を経て、1988年に高知大学農学部講師として着任され、1992年4月からは高知大学人文学部の講師となりました。同年10月には助教授になられ、1998年に教授に昇任されました。

2004年に高知大学大学院黒潮圏海洋科学研究科の設置とともに同研究科教授となられ、その後の学内組織変更によって、2008年に高知大学教育研究部総合科学系黒潮圏総合科学部門教授になられています。これまで、36年の永きにわたって勤務され、この3月末に定年を迎えられ退職されます。

飯國芳明先生は、人文社会科学部において学部生の教育や研究指導にあたるとともに、大学院総合人間科学研究科人文社会科学専攻及び黒潮圏総合科学専攻において修士課程、博士課程の大学院生の教育や研究指導を行ってこられました。

学部の教育では、経済学の基礎科目である「ミクロ経済学Ⅰ」の他に、先生のご専門である「農業経済論」、共通教育科目として「森との共生を探る」等の科目を担当され、とくにゼミナールでは、先生の研究フィールドでもある大豊町を中心に地域社会との関わりを重視した授業を展開されました。また、大学院の教育では、中山間地域の経済や政策の分析を軸とした研究指導を行われ、社会人や留学生を含む多様な人材の育成にあたられました。

飯國芳明先生のご研究は、中山間地域問題と土地所有権問題に関するものとなっています。少子高齢化や限界集落に象徴される地域社会の脆弱化の進行にともなう中山間地域で生じている問題に対し、高知県を拠点として、台湾、韓国、スイス、ドイツなどの研究者とともにグローバルな視点から共同研究を進

められ、その成果のひとつとして2011年に日本学術会議の提言「食料・農業・環境をめぐる北東アジアの連携強化に向けて」を公表されています。また、土地所有権問題では、相続登記が行われないことにより生じる所有者不明土地問題の構造を解明するために法学、農業経済学、林業経済学の研究者とともにご研究され、2018年に『土地所有権の空洞化－東アジアからの人口論的展望－』を公表されています。このように、先生のご研究は、様々な地域や研究分野の研究者との共同研究による多面的な分析に裏付けられるものであり、著書22編、学術論文49編というように非常に多くの研究成果を残されています。

飯國芳明先生は、こうした教育、研究の功績に加えて、国立大学法人高知大学の副学長（研究担当）、高知大学大学院総合人間自然科学研究科黒潮圏総合科学専攻長、総合科学系黒潮圏科学部門長等の要職を務められました。先生は、研究担当の副学長となられる前から本コースの教員ともいくつもの共同研究を行う等、研究の発展やより良い研究環境の構築に尽力されてきました。

また、学外においても日本学術会議連携会員、(独)大学評価・学位授与機構国立大学教育研究評価委員会専門委員、農林水産省農村振興局中山間地域等直接支払制度に関する第三者委員会委員、高知県森林環境保全基金運営委員会委員長、(公財)高知縣市町村振興協会理事、高知県新食肉センター整備検討会委員長等を務められた他、日本農業経済学会や地域農林経済学会において理事職を担うなど、国や高知県、学会運営に尽力されてきました。

これまでの先生の教育、研究、大学運営へのご貢献に深く感謝を申し上げるとともに、引き続き高知大学へのご支援をいただけますようお願いいたします。先生の今後のご健康とますますのご活躍をお祈りいたします。

## 中川香代先生の定年退職にあたって

社会科学コース長 山内 高太郎

中川香代先生は、1981年に中央大学商学部を卒業され、企業で実務経験をつまれた後、1988年に明治大学大学院経営学研究科博士前期課程に進まれました。同大学院博士後期課程を経て、1994年に高知大学人文学部に講師として着任されました。1998年に助教授になられ、2004年に教授に昇任され、学内の組織変更により2008年からは教育研究部人文社会科学系人文社会科学部門教授となられています。これまで、29年6ヶ月の永きにわたって勤務され、この3月末に定年を迎えられ退職されます。

中川香代先生は、約30年の高知大学における教育活動において「経営学概論」、 「人事管理論」等の経営学関連の授業を担当され、近年ではこれらの授業に加えて「働き方改革と職業生活を考える」、「DXとビジネス創出」等、社会的なニーズに対応した授業を担当されました。また、先生のゼミナールは、経営学の理論的な指導に加え、学生が実際に企業等でインタビューを行うなどの調査活動を通して実社会についての理解を深めるものとなっており、先生の専門性や研究成果をいかし、学生に実社会における状況を伝えることを重視されていました。先生の教育能力の高さに加えて、人柄、学生指導の丁寧さから多くの学生が先生の講義やゼミナールを受講し、また、大学院においても積極的に学生を受け入れられ、社会人や留学生を含む数多くの学生の指導にあたられました。

中川香代先生のご研究は、企業内の人事労務管理の課題を中心に、それを取り巻く経営管理システムと労使関係を対象領域とし、国際比較と歴史的過程の分析を行い理論の構築を試みるというものです。とくに日本とイギリスの人事労務管理の比較研究において、1980年代から1990年代にかけての日系企業のイギリス進出による日本の人事労務管理の展開に着目され、日本の人事労務管理を相対的に位置付ける研究に取り組みされました。この他にも女性労働、非正規

雇用，ワーク・ライフ・バランスなど，多様な人々の能力の活用をテーマに人事労務管理に関連する研究成果を数多く残されております。

中川香代先生は，こうした教育，研究の功績に加えて，教育研究部人文社会科学系長，人文社会科学部長，大学院総合人間自然科学研究科人文社会科学専攻長，教育研究評議会評議員，入試企画実施副機構長，安全・安心機構副機構長などの要職を務められました。とくに人文社会科学部長を務められた期間は，新型コロナウイルスの感染拡大への対応が必要となり，ご負担が非常に大きかったことと思います。

また，学外においてもこうち男女共同参画会議の座長を務められ，「こうち男女共同参画プラン」の策定のための協議を主導されている他，高知県産業振興計画フォローアップ委員会商工業部会委員や高知労働局地域雇用活性化支援アドバイザーとして，高知県の産業振興と雇用の活性化にご尽力されてきました。

この4月からは，高知大学客員教授として引き続き人文社会科学部の教育にご尽力いただけることとなりました。これまでの先生の教育，研究，大学運営へのご貢献と引き続き高知大学へのご支援をいただけますことに深く感謝を申し上げます。先生のご健康とますますのご活躍をお祈りいたします。